

西脇市就学前教育・保育の 推進に関する基本方針

～これからの幼稚園・保育所について～



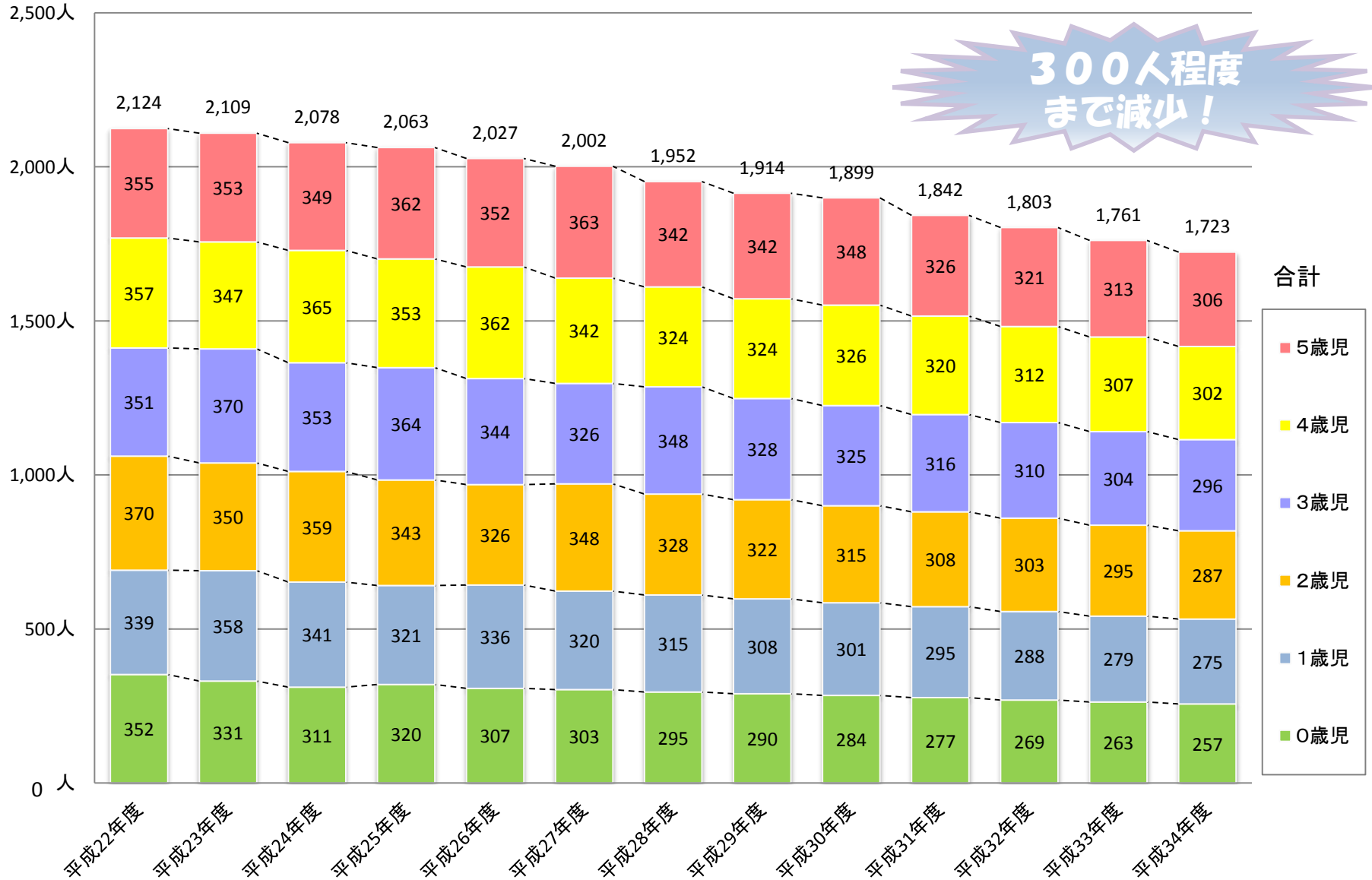
平成26年10月4日(水)・5日(木)

1 現 状

- 幼児（0歳～5歳）の減少
- 就園先の変化
- 将来就園予測園児数
- 施設の老朽化
- 幼稚園5歳児のみの単年度教育

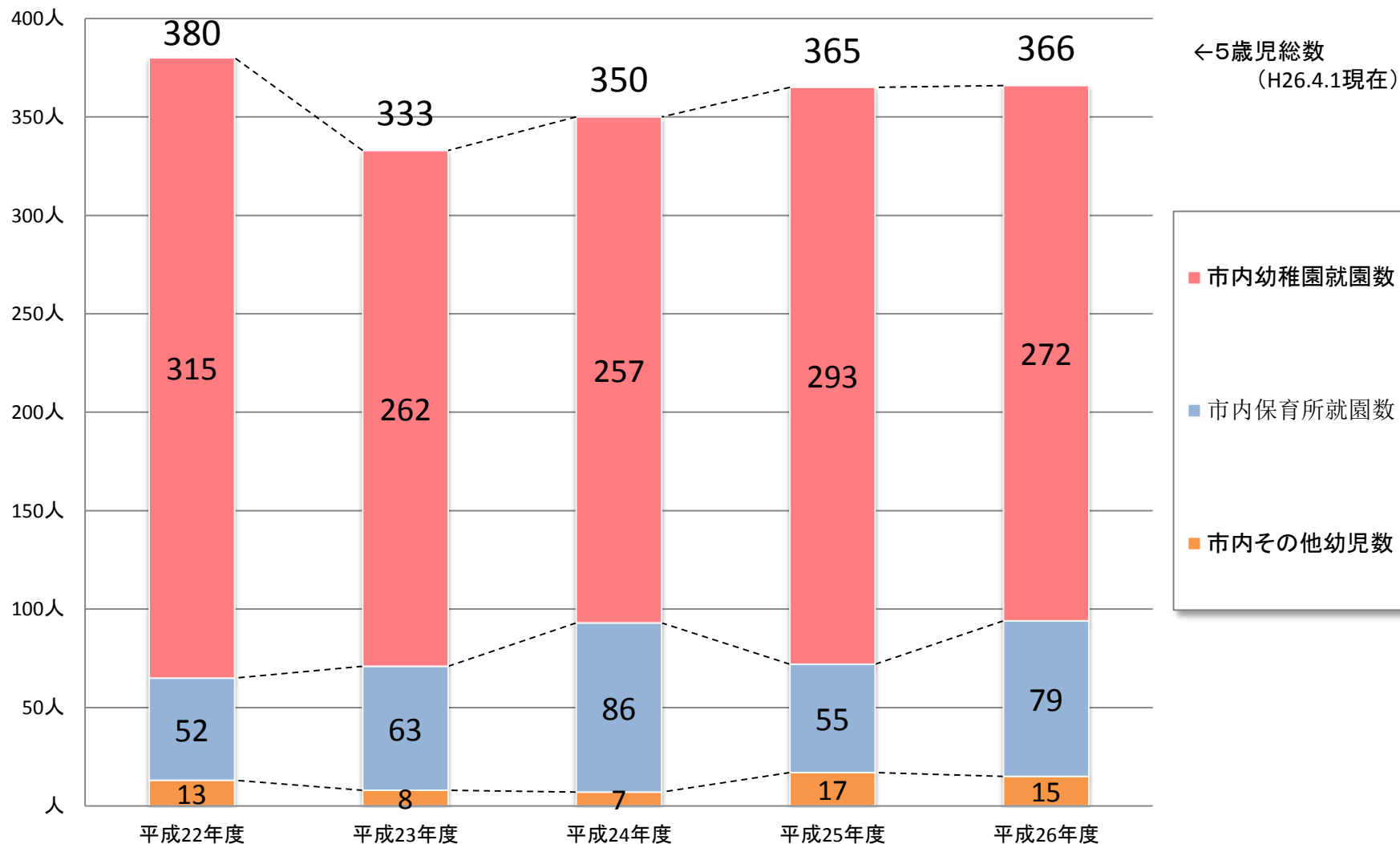
1-1 幼児の減少

- ・平成25年度までは実数
(各年度10月1日現在の数値)
- ・平成26年度からは推計値



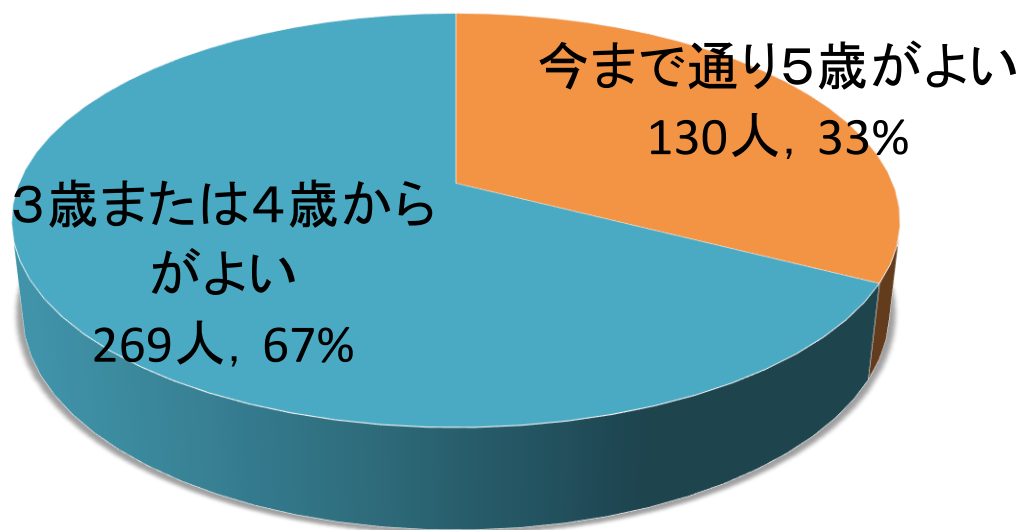
1-2就園先の変化

保育所のニーズが高まり、
幼稚園のニーズが下がって
きている。



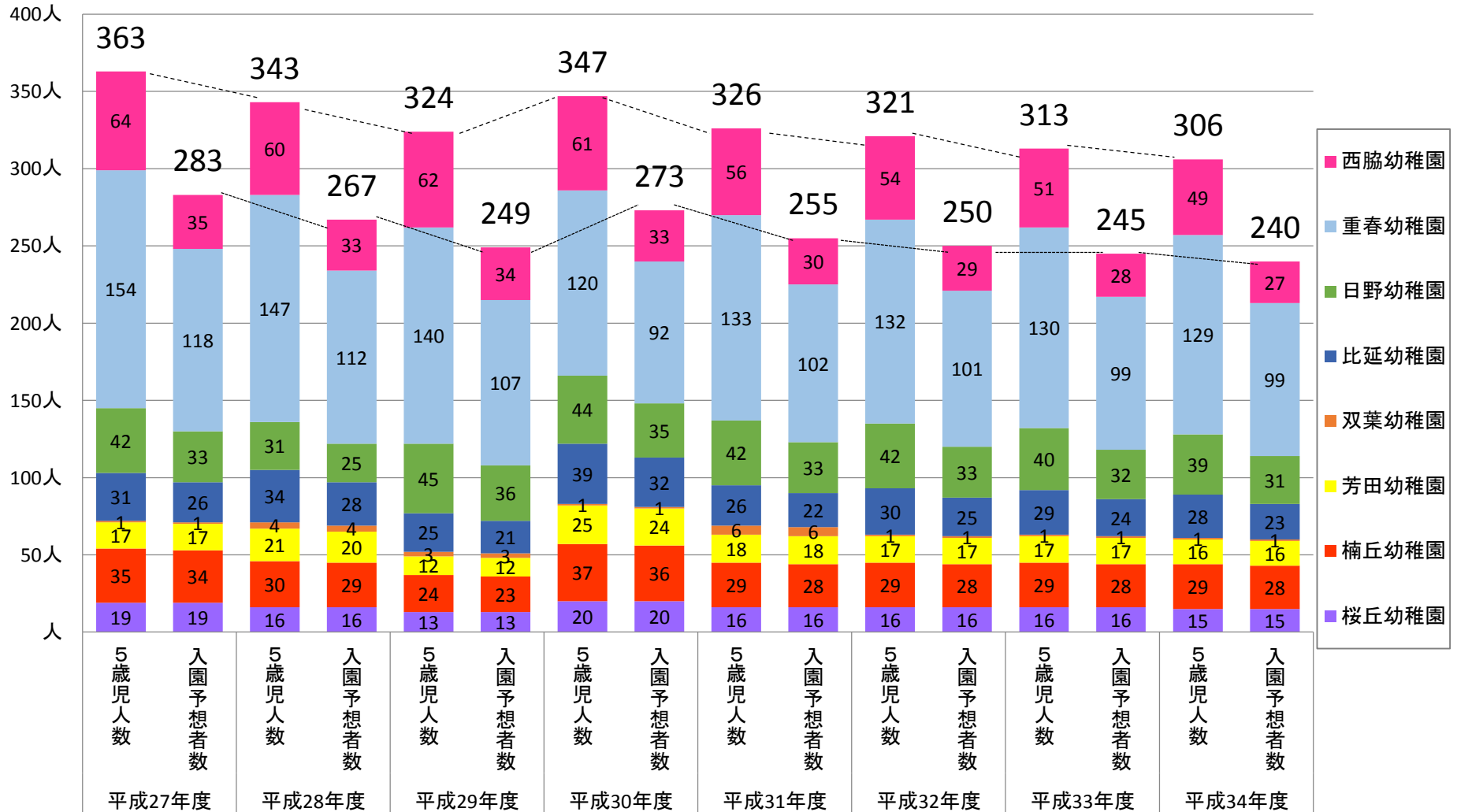
幼稚園教育・保育に関するニーズ調査 —保護者アンケート集計結果—より

問 これから西脇市の幼稚園教育は次のどれがよいと思いますか。



これまでの西脇市の幼稚園教育を評価している親が3割いるが、7割が従来より早期の教育を望んでおり、選択の可能性を求めている。

1-3 将来就園予測園児数



1-4 幼稚園施設の老朽化

園名	建築年度	経過年数
西脇幼稚園	昭和31年度	57年
重春幼稚園	昭和42年度	46年
日野幼稚園	昭和53年度	35年
比延幼稚園	昭和41年度	48年
双葉幼稚園	昭和36年度	52年
芳田幼稚園	平成元年度	24年
楠丘幼稚園	昭和37年度	51年
桜丘幼稚園	昭和36年度	52年

1-5 保育園施設の老朽化

園名	建築年度	経過年数
西脇保育所	平成16年度	10年
日野保育園	昭和41年度	48年
比延保育園	昭和44年度	45年
津万保育園	昭和44年度	45年
どれみ保育園	平成22年度	4年
春日保育園	昭和42年度	47年
芳田保育園	昭和47年度	42年
黒田庄保育園	昭和54年度	35年

2 課題

- 幼児数が減少していく中で、教育・保育の**適正な規模の集団を確保**し、より充実したカリキュラムの実施を行うこと。
- **多様化したご家庭や保護者の就労に柔軟に対応できる教育・保育のサービス**を提供すること。
- 在宅幼児などを安心して子育てすることができる**地域の子育て支援拠点の確保**を行うこと。

3 理念と将来像

- ① 質の高い就学前教育・保育を保障
- ② 必要とする全ての子どもに教育・保育を提供
- ③ 多様な教育・保育ニーズへの対応
(ニーズ調査の結果から)
- ④ 小学校就学へのスムーズな連携
- ⑤ 在宅児童・保護者を支援する子育て支援拠点



保育所をベースとした幼保連携型認定こども園へ

4 なぜ法人・民営化なのか

- ①複数年教育の対応(3歳～5歳の教育の実施)
- ②保育所・幼稚園施設の老朽化⇒
全ての園を建て替えると莫大な費用がかかる⇒
限られた費用で効果をあげるためには、国・県の補助
制度を活用することも必要
- ③幼児数が減少していく中、保育所との競合を避ける。




新しい就学前教育を目指す！

5 幼保連携型認定こども園のメリット

- 保護者の就労やライフスタイルに柔軟に対応できる。
- 異年齢集団での遊びや生活を通しての教育・保育を提供できる。
- 心の育ちを優先し、生きる力の基礎を培う。
- 必要とする全ての子どもに教育・保育を提供できる。

6 市立幼稚園統合と閉園スケジュール

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
西幼	準備期間【整備改修検討】	準備期間【整備改修検討】	一園統合化	預かり保育廃止		【幼】募集停止	【4・5歳児のみ】	【5歳児のみ】	閉園
重幼									
日幼									
比幼									
双幼									
芳幼									
楠幼									
桜幼									

7-1 幼稚園の円滑な移行 (セーフティーネットの充実)

(1) 幼稚園の移行方法

- 待機児童が発生しないよう、就園児童の推移と受け入れ体制をチェックしていく。
- 一園統合(H29.4)し、閉園(H35.3)までに認定こども園化をはかる。
- H32より募集停止をするが、在園している児童の年代は募集を続け、集団を確保する。

7-2 幼稚園の円滑な移行 (セーフティーネットの充実)

(2) 移行期間中の質の確保

- ・幼稚園、保育所、認定こども園について、教育・保育の質を確保するため研修会を実施する
- ・専門家の指導・助言をいただきながら、カリキュラムを新たに作成する。(幼稚園については3歳～5歳、認定こども園・保育園については0歳～5歳それぞれ)
- ・市教委・市庁より定期的に訪問指導を行い、教育・保育のさらなる充実をめざす